■在京飯田高校同窓会会長 就任に当たって

絆を強めよう

小椋貞夫（高5回、在京飯田高校同窓会会長）

私は昨年十一月に、在京飯田高校同窓会の総会において、岡村隆臣（高2回）さんの後をうけ会長に選任されました。在京同窓会とは、原正一さんの総会開催準備のお手伝いをしたのが始まりで、以来三十年余り、役員として関わって参りました。

常々、あまり長くなると組織の活力を阻害する要因ともなりかねず、すでに年貢は納めた気分でおりましたので、なるべく早く舞台から降りたいと考えていました。それだけに、今回のことは私にとりましては大きなサプライズでした。

同窓会の役員になってから考えてきたことは、会を盛大にしたい、一人でも多くの方々に参加していただきたい、どうしたらそれが出来るのか、ということでした。しかし、あれこれ考えてはみるものの、これぞという方法が見つからないのが現実でした。

そんな中にあって、在京同窓会として、画期的ともいえる二つの改善策を実行して参りました。その一つは、当会の顧問である平田達（中47回）さんが会長に就任されて、毎年開催している総会の事前の準備、当日の運営を当番期制（十年違いの二つの期が担当する）にして、卒業年次毎の学年の方々にお願いするという方式に改めたことです。これにより当番期の方々が総会を仕切ることになり、同期生との繋がりが強化され、同窓会に対しての関心も高まりました。参加者も年毎に増加してきております。

二つ目は、在京同窓会の会誌を発行しようと提案されたことです。同窓生の皆様が、それぞれ生きてこられた人生の経験、体験等を語り、感動を分かち合い、会員相互の交流を深めたいとの趣旨で、

会誌「稲穂」を毎年発行して来ました。おかげで、今回で七号を迎えることになりました。会員の皆様からもご好評をいただいているところです。会誌の発行によって、同窓会としての絆を一層深めることが出来たのではないでしょうか。同窓会が、このような会員のための会誌を発行しているところを他に知りません。在京同窓会の事業として、大変意義のある活動であり、誇りではないかと自負しております。

私は会長就任に当たって、この活動をさらに広め、維持・継続して充実したものにしていくよう務めたいとの意を強くしているところです。会員の皆様には、積極的に誌上への投稿をお願いいたしたく、また、会の運営のために維持費納入にご協力をお願いする次第です。同窓会としては、会員相互、母校との絆を強めていく、さらに事業を通じて、地道に活動を続けていくことこそが、最も大切ではないかと考えます。

今年は、母校独立一一〇周年の節目の年であり、同窓会として社会貢献の事業を推進していく、新しい試みも始まろうとしています。その中で近頃、少々気になっていることもあります。それは若い人達が、現代の生活がコンピューター相手になっている故か、ネットがあれば全て事がすむ―その世界に満足してか、他に関心を示さない、個人のプライバシーがどうのこうのと理屈を並べて、住所を教えたがらない、同期会も開けない、将来、同窓会も開けなくなるのではないかという話をよく耳にします。これから、どういう流れになっていくのか今はわかりません。同窓会の活動も、ネット社会をさらに活用して発展していくのかもしれません。それはまた、後の人たちの課題としましょう。

私も微力ながら、在京同窓会の更なる発展のために努力致したいと思っております。

会員の皆様のご協力をお願いする次第であります。

●おぐら・さだお
１９３４年、豊丘村河野生まれ。日本大学法学部卒。特殊法人私立学校教職員共済組合（現、特殊法人日本私立学校振興・共済事業団）元常務理事。現在は、特定非営利活動法人（ＮＰＯ）生涯学習＝大学人会議 理事、㈱東洋実業 副社長。